

## 「赤徳小学校のシマ唄伝承活動の取組」

### 1 学校名

龍郷町立赤徳小学校

### 2 学年・人数

3年生 4年生 (計29人)

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

令和4年11月21日(月) 赤徳小学校3年教室

令和5年1月15日(日) 赤徳小学校3年教室

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

#### (1) 名称

島唄・三味線・島口

#### (2) 由来

島唄の「シマ」とは、奄美の言葉(シマグチ)では集落のことをさし、シマウタとは「シマのウタ」、つまり自分の集落で歌われている歌のことです。奄美群島にはシマごとの特徴を残している歌もある。作曲者も作詞者もおらず歌詞やメロディーを書くことを前提とせず、耳で聞き、口で歌われることで受け継がれてきたものです。

#### (3) 構成等

「仕事歌」, 「行事歌」, 「遊び歌」の3種類に区別できる。仕事歌とは、田植えや舟漕ぎのような仕事のときに歌われていた歌で、今ではあまり歌われていない。行事歌は島の年中行事のときの歌で、現在残っている代表的な歌は八月踊り歌です。遊び歌は仕事や行事とは関係なく、遊びのために三味線の伴奏で歌われた歌です。これらの歌のうち「奄美島唄」と通称されるものは奄美群島北部の歌のことである。南部の歌は各島の名前をつけて「沖永良部民謡」, 「与論民謡」と呼ばれています。

### 5 保存会や地域との連携の具体

本校では、総合的な学習の時間において、地域の伝統・文化・自然を探究的に学ぶ活動を位置付けている。本校では毎年、地域の方を講師として招聘し、島唄や島口、伝統的な踊りや楽器について教えてもらっている。校区に住む、島唄保存会の方とつながりがあり、毎年来ていただき、島唄の歌唱指導を行ってもらっている。講師の方も、伝統を子どもたちに受け継いでいきたいという思いがあり、積極的に楽しく参加していただいている。

### 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校は小中併設校であり、中学校では実際に三味線を弾いて歌っている。小学校3・4年生で得た、知識としての島唄の歴史や、体験的に歌いながら身に付けた島唄に親しむ態度は、小中連携して学ぶ「地域を愛し、愛される児童生徒」の育成につながっている。

## 7 取組の様子



【歌詞の意味を教えてください】



【歌ったり踊ったりしている児童】



【楽器に親しむ児童】



【島の文化や言葉について】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【3年生児童】

- 教えてもらいながら歌ってみて、とても楽しかったです。最初「島育ち」が難しかったけれど、慣れてきて上手に歌えました。
- 歌いながら踊って、とても楽しかったです。もっと島唄が好きになりました。「島育ち」が得意になりました。

### 【4年生児童】

- 知らない人にも島唄を伝えたいと思った。島唄をわたしたちが大事にして受け継いでいきたい。
- 3年生で学んだときよりも、歌い方が上手になり、更に島唄が好きになりました。

### 【講師から】

楽しく歌い踊る子どもたちから元気もらいました。島のことに興味をもってくれることが何より嬉しいです。